

# とみけいニュース

## 発行 第62号

発行元  
富山経済会  
発行日  
平成30年8月1日  
編集  
広報委員会



平成三十年度会長 会長挨拶

ホテルグランテラス富山 副総支配人

兼 管理本部長

湯上 均

「春眠曉を覚えず」 もんはおらん 孟浩然の詩。  
誠に春の夜は寝心地がいいものです。  
起床の朝、あと5分だけの眠りも、気持ちが良いことは皆様も同じかと思

います。  
さて、私は一九八〇年（昭和五十五年）当時住友生命ビル内にありました名鉄トヤマホテルに入社しました。現ホテルが一九八二年（昭和五十七年）に開業し、同年富山経済会も発足されました。思えば一緒に歩んできた三十六年です。  
若い頃は現場で、皆様方のお食事等接待させていただいておりました。初めの頃は、皆様企業のトップということもあり、緊張などで話もできなかったものです。

しかしながら、会場内での接客をしながら見ていた雰囲気は、経済団体多数ある中、一番アットホームで親しみやすく、その中にも緊張感があり、とても良い団体だと感じておりました。私が富山経済会に入会した経緯をお話します。経営が変わった二〇一二年、その頃、永年おられた方々も退職し、代わりに各団体へ私の代が入会の運びとなった時、社長から「3つの

団体から選んでください」と言われました。体感した若い頃の経験から、富山経済会を一番に指名させていただきました。

他団体は悪いわけではないのですが、私の中では一番でした。  
今も変わらずここまで作り上げてこられた諸先輩方に、感謝、感謝いたすところです。

平成三十年度会長をさせていただくことになりました。私の中で嫌いな言葉があります。

一つ目は「片手間」です。本業はもちろんですが、並行して富山経済会におきましては一心一意、精一杯職を全うして行こうと思います。

二つ目は「できない」です。できないというのはネガティブな発想で、ややもすれば相手が離れていく。できないれば何か別の提案ができるよう、ポジティブに進みたと思います。

そして、昨年周年行事も終わり新たに進みだす本年度は、昨今からの課題である「会員増強」を目標に、出来る限り尽力をするところであります。

しかしながら、執行部をはじめとする会員の皆様ご協力なしでは達成できません。

何卒ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

おそろく平成年号最後の記念すべき会長になるかと思ひます。

誇りに思つて頑張つてまいります。諸先輩方の扶翼お願い申し上げます。

### ゴルフ同協会

#### 4/4 呉羽カントリークラブ

1位 鈴木さん 2位 吉田さん  
3位 上村さん

#### 5/24 呉羽カントリークラブ

1位 亀谷さん 2位 鈴さん  
3位 上村さん

#### 7/18 太閤山カントリークラブ

1位 鈴さん 2位 宮崎さん  
3位 嘉藤さん

### ☆☆新会員☆☆

代表取締役  
株式会社 寿屋  
吉田 優氏



### 【平成30年度理事】

会長 湯上 : 副会長 羽根  
会計 吉田 : 幹事 小倉  
総務 委員長 鈴木 : 副委員長 池松  
企画 委員長 市山 : 副委員長 竹内  
広報 委員長 庄田 : 副委員長 亀谷  
会員増強委員長 橋本

9/19 テーブルマナー中華料理  
10/3.4 研修旅行（東京方面）  
10/17 講演会  
12/21 クリスマスパティー







株式会社 竹勘

代表取締役 竹内 信善 氏

平成29年4月に入会された、株式会社竹勘の竹内社長に、メンバースピーチをされた定例会の後に1Fのカフェジェラフにて庄田広報委員長と事務局の女性2名にてインタビューしました。



#### ・会社の沿革・概要について

明治初期に富山市堤町で料理・仕出し・鮮魚店として創業され、昭和40年に鱈寿司加工業を始められ、昭和46年に株式会社竹勘を設立されました。そして平成2年に新社屋と最新設備の加工工場が完成し、平成28年に竹勘アピタ店リニューアル・上袋店がオープンしました。

業務内容は、水産物卸業が創業100年の歴史があり市場で中卸をして、仲買スタッフが落札した商品は、分荷スタッフが素早く市場内の店舗に運びお客様の注文に応じて鮮魚店、大手スーパー、料亭、旅館、ホテルへと届けます。食品製造業は、ます寿し・ます寿しの原材料・半月・丸パック等、水産物加工業は、昆布メ・かぶら寿司・うなぎ蒲焼等を加工製造し、他には水産小売業、不動産部、外国人研修事業があります。

竹内社長は、4年半のサラリーマン後に入社され、自身の会社のことを話されるときには、「私の会社」と言う言葉は、社員の方に対しても使われず、社長業を仰せつかっているとされています。

ホテルグランテラス富山さんとのつながりは深く、先代のお父様が商売を始め、初めて魚を収めたところが名鉄トヤマホテルで富山での仕事の原点です。

#### ・取扱商品

主な取扱商品は、富山の伝統的名産ます寿し、ぶり寿し、かぶら寿し、富山海の幸、カニ、一夜干、昆布メ、ます寿しでも桶(おけ)一段・二段・特選・匠等、また丸パック・半月やその他にプッチトシリーズや押し寿司等数多くあります。



ます寿し2段



ます寿し丸パック



ます寿し半月



ます寿し匠



プッチトます寿し

丸パックは、ます寿しをお土産商品から日配商品へと考えた包装、笹、竹等を省いたます寿しで、売上げが上がりました。そして下がり始めた時に悩んで作った商品が半月です。両方とも竹内社長にとってとても思い入れが強い商品です。竹勘さんでは、比較的多くの人に受け入れられやすい味付けになっています。

また、あまり知られてはいませんが、ます寿しの味の決め手・キーワードは、「塩」だそうです。一晩塩でしめて熟成して「酢」で味付けします。最初に塩で味付けとは知りませんでした。酢の中に入れておくと硬くなります。

#### ・商品の味のチェックはされますか？

竹内社長なりのルールがあるようで半年に1回の全体会議で6~7社のメーカーのものを買い集めてきて試食会をして何を感じるかを話し合っています。自分がおいしいではなく、時代のニーズに合ったものを作ることにしています。味は時代により変えていき万人向けの商品を作っています。会議で、その対比が半々なら社長の判断にしますが、8:2なら間違いなく8の意見の方を選びます。売上げを上げるには、万人受けするものを作ることで、女性と子供受けするものは世を制し売上げが上がります。

(このお話はまだまだあるようなのでまた次回に伺いたいです)

北陸道有磯海SAでも

大人気ですー





・大事にされている3つの心得（メンバースピーチにて実習生の勉強会のお話より）

1、挨拶 挨拶をきちんと伝えること（外国人は挨拶をきちんと伝えることができません）

2、低姿勢 日本ではありえないことが外国では当たり前があるので、たとえば間違っていたら大声で抗議して、さらに一生懸命に伝えようとして話し方がアップダウンし、言葉がわからないと怖く感じます。低姿勢でいくと相手は聞く気になるので、言葉が通じなければ通じないほど低姿勢になる必要があります。

3、笑顔 笑顔で接すると相手は嫌な気はしません。この3つが日本人と共に働く日本人に嫌われないためのキーワードです。



- ・ 趣味について

竹内さんの趣味は車(ベンツ)とバイク(ハーレーダビッドソン)です。趣味の時間もとても大事にされています。ゆっくり走っても許されるのはハーレーだけでツーリングには参加せずに気の合う人と走っておられます。遠くは大阪や名古屋までです。(ゆっくり走り安全運転です。)ハーレーは事故率も低く保険料もお安いそうです。そして、日曜日の夜にはガレージで洗車をして笑顔が出てタバコとコーヒーを飲む時間がとても楽しいです。車とバイクを磨くのは、靴を磨く感覚を同じと、言われました。また、仕事のことを考えなくてもいい自分が「無」になれるパチンコにも行かれるそうです。

・入会されていかがでしょうか

今までロータリーやライオンズには声をかけていただきましたが入会していませんでした。

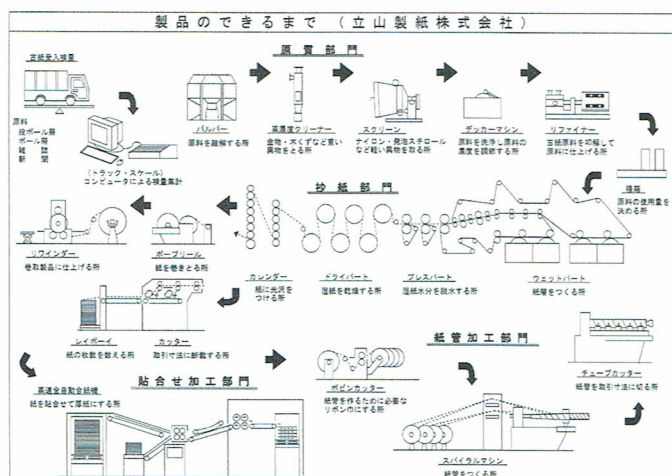
今回湯上さんのお誘いで入会しましたが、元気な人生の先輩方が多く、企業のカラーをはずれフラットな関係で皆さんと接することができます。



メンバースピーチ後に引き続きお話していただきありがとうございます。お仕事、趣味、ます寿しの話などまだまだお話を聞きたいことがたくさんあります。もし機会がありましたら竹内社長の新しいハーレーに乗られた姿をぜひ拝見したいです。〔広報委員長 庄田〕

## 企業訪問

平成30年7月4日 立山製紙株式会社 中新川郡立山町五百石



立山製紙さんにて古紙(新聞等)が新しい紙製品へと再生されるまでの工程を見学しました。

4人のグループ分けて工場内を回り、従業員の  
方の丁寧な説明を受けました。

異物混入のまま原料が投入されパルパーで離解され、高濃度クリーナーにて大まかな異物が取れ、スクリーンでナイロンや発砲スチロールなどの軽い異物を取ります。その後デッカーマシンにて原料を洗浄し濃度を調整します。そしてリファナー・種箱を経て抄紙部門へと行き紙層をつくり湿紙水分を脱水して乾燥し光沢を付けます。

次は巻取り製品や取引寸法に裁断し紙の枚数を数えます。



環境対策で木くずなどを主燃料とした木質チップバイオマスボイラーを使用し、重油使用量は半分以下、二酸化炭素の排出量は約 25%削減します。木質チップは県内の建築廃材の木くずなどが原料で、環境負荷が少ないのが特徴です。太陽光パネルも 1334 枚が屋上にフラットに置いておられます。また、段ボール工程をテクニカルに見直され電力を 1000KW削減されました。(立山製紙さんの多くの方の丁寧な対応に感謝致します)



## 歩くこと2題(初夏の海と里山)

有限会社 石黒善蔵商店 代表取締役 石黒 雅熙

高校時代の7～8名の友人達と2ヶ月に3回位のペースで、宮崎海岸を発し、氷見の阿尾海岸を目指し、里山に連綿と続く全行程六百数十Kmに及ぶ、林道や登山道、時には藪漕ぎしなければならないような小道を辿って、はや5年目。口さがない友人たちは“爺捨て山探し・徘徊クラブ”と呼んで居る様であるが、齢を重ねて落ちる体力と、彼方此方の痛みと闘い、励ましあい、今秋ゴールにたどり着けそうになりました。こんな里山巡りの合間に、一人でふらっと田圃回りを兼ねて気儘な、それこそ徘徊に出掛ける事も多く有り、最近の徘徊の様子を少々報告いたします。

### 【初夏の海辺 能登半島一周途上にて】

隣の県とはいえ、能登半島は大きく広く、奥能登に入ると遠さが一段と増し、往復に時間が取られるために、段々と行き辛くなり、輪島市辺りで停滞していました。先日、日曜日何の約束も入っていなかったのも、早起きして車で長駆輪島に。朝市の賑わいを横目に、旧輪島駅からバスに乗り大沢方面に行き、輪島を抜けて白米千枚田まで海岸沿いに歩きました。富山と異なり能登の里山は海辺に接し、荒磯との間を辿る路では、終日海鳴りと里山に鳴く鶯の中を行く道のりでした。



大波が打ち寄せる度に白い水飛沫が上がり、25Km先の水平線上に、の七つ島を遠望する壮大な景色でした。里山と海が接する僅かな土地に、平均1.5坪(5㎡)の棚田の観光田として稲作をしている白米千枚田は、“耕して海に至る”の感が有る。一方で優に1反(1000㎡)以上有るかと思われる田圃の多くが、耕作放棄田として、その姿を晒しているのを見ると、なんとも複雑な気持ちであった。今、奥能登は能登国“開国1500年”で静かに盛り上がっていました。

←能登の荒磯の道



### 【初夏の里山に水芭蕉を求めて】

五月連休の天気の良い週末に、遠足気分で、JR八尾駅からコミュニティバスを乗り継ぎ、野積川上流、小学校跡の西松瀬バス停から、隣村の桐谷へお嫁さんも越えて行ったと云う、夫婦山・松瀬峠を抜けて、別所川源流地域・小井波に、水芭蕉を見に出掛けました。本年は季節外れに暑いぐらいの日も有ったので、もう遅いかなと思っていた通り、白い額は殆ど散っており、葉が青々と茂り、若葉の色を濃くした木立では鶯が鳴き、雲雀轉りが白雲を浮かべた青空に吸い込まれていました。ここ小井波は平安時代九世紀、三十六歌仙・猿丸太夫が晩年庵をひらいたとされ、今から千二百年前には、それなりの集落が有ったであろうと想われるが、今は広大な放棄田に鬱蒼と夏草が繁茂し、庵跡の小高い盛り土に、猿丸太夫塚を残すのみ。百人一首に猿丸太夫の歌として“奥山に もみぢ踏み分け鳴く鹿の 声きくときぞ 秋はかなしき”とある。返し歌と云うにはお粗末ですが、“万緑の 夏草踏み分けひばり鳴く あるじなしとて いほり訪ねん”なる戯れ歌を献上し、久婦須川上流の桐谷に下りました。



【結び】 500万年前アフリカの大地溝帯辺りで、人類と類人猿が分化し、直立2足歩行し始め、100万年前ユーラシア大陸に、そして9万年掛けてグレートジャーニーと呼ばれる、南米南端に達する人類にとっての大旅行を成し遂げました。こんな奥底にあるDNAに突き起こされているのであろう、彼方此方の田圃をみながら徘徊するスモールジャーニーしている小職です。

←夏草に埋もれる猿丸大夫塚